

アイヌの口承伝統

アイヌの歴史、物語および習慣は歌や語り継がれる物語を通じて口承で伝えられました。これらの物語は大きく3つのカテゴリーに分類されます：英雄叙事詩、神話叙事詩、散文説話です。

勇敢な主人公が劇的な状況で活躍する英雄叙事詩は「ユカラ」と呼ばれますが、北海道の地域によって他の呼び名も存在します。演者はそれぞれの旋律で物語を歌い、木製の棒で打楽器的な強調を加えます。これらの叙事詩は数時間に及ぶこともあります。

神話叙事詩は「カムイユカラ」または「オйна」として知られ、しばしばカムイ（精霊神）の視点から語られます。これらの物語は繰り返しの旋律で歌われ、擬音語を含むリフレインが特徴です。これらは数分から1時間以上続くこともあります。

「ウエペケレ」や「トウイタク」と呼ばれる日常の散文説話は、日常会話に近い口調で語られます。

その中には人間の登場人物とカムイとの関わりを中心とした教訓話もあります。

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、アイヌの人々は日本語を学ぶよう奨励され、学校

での教育は日本語だけで行われるようになりました。その結果、家庭でアイヌ語が話される機会が減少し、アイヌの物語を語る習慣も衰退しました。1970年代頃、アイヌ語への関心が再び高まり、これらの物語を復活させ保存するための取り組みが始まりました。アイヌ語は2009年にユネスコによって危機言語に指定されました。